

国内福祉研修報告

研修先：社会福祉法人 清光会「しんことに清香保育園」

北海道札幌市にある保育園で、昭和52年2月に開園。0歳～5歳児までの保育をしている。

しんことに清香保育園独自の取り組みは、今回の研修の対象にさせていただいた“くまちゃんといっしょ”の他に、健康と体力づくりのための“はだし保育”や、年上の子が年下の子の面倒をみることで、長子、中子、末子のすべてを体験できる“3歳～5歳児の異年齢クラス編成”など様々行われている。

保育目標は、1. 健康で丈夫な体を持った子供、2. 自分のことは自分で出来る子供、3. 話をよく聞き、自分の気持ちをはっきりと言える子供、4. 友達と楽しく遊び協力できる子供、5. よく見よく考え豊かに想像する子供、6. のびのびと表現し喜んで創造する子供である。

登園時間や帰宅時間は家庭によってバラバラだが、7時から早朝保育が始まり、19時まで延長保育をしている。

テーマ設定理由：卒業論文について考えていたところ、ゼミの教授からこの保育園での試みを伺い、興味を持ったため。

目的：マスコット人形お泊りプロジェクトの心理学的効果について

今回の調査では、マスコット人形お泊りプロジェクトがどのように行われているか、子供たちにとって人形はどのような存在なのか、人形が子供たちに何か影響を与えていないか、また保育園側はどのような効果を期待してこのプロジェクトを始めたのか、ということに注目し調査を行った。

内容：このプロジェクトを取り入れた園長先生に詳細を伺った後、職員の方々、保護者、園児にインタビューした。また、園児と触れ合う形で園の見学もした。

<マスコット人形お泊りプロジェクトの詳細>

・このプログラムは、くまのぬいぐるみを各家庭に持ち帰ってもらい、保護者に子供とぬいぐるみの写真を撮影していただいて、持って帰った子供は翌週の月曜日にくまちゃんと何をしたかを発表し、その写真は保育園内に貼り出すという内容。

・親同士、子供同士、親子のコミュニケーションや、園と家庭をつなぐ目的で導入。

・くまちゃんは、クラシックプーさんのぬいぐるみで、名前はなく、くまちゃんと呼ばれています。くまちゃんは上半身が出るくらいの大きさのリュックサックに入れられていて、その中にデジタルカメラも入れている。

・平成20年度5月に導入され、現在2年目で、1年間かけて全家庭に回していくように年頭に計画表を作成。

・掲示した写真はすべてアルバムにまとめ、園にて保管。

感想：事前に少しお話を聞いていた時は「ドールセラピー」のようなイメージを持っていて、ぬいぐるみによる癒しの効果があると考えていた。しかし、実際に見学させていただいて、インタビューさせていただくと、ぬいぐるみ自体の効果ではなく、そこから生まれるコミュニケーションが重要なのだと感じた。保育園ではこの先もこのプロジェクトを続けていくということなので、今後新たな効果がみられ

るかもしれない。今回インタビューさせていただいた園児の来年での変化を追いかけてみたいと思った。

私は現代福祉学部で、主に心理学の勉強をしています。基本的な理論から分析法のような応用まで幅広く学習してきました。心理の他にも、福祉や地域づくりを学んでいる学生もおり、一つの問題を多くの視点から検討することができます。本学部の魅力はそのように多方面からの援助について学べることだと思います。

今回の研修プログラムでは、講義で得たものを現場で感じることができました。このプログラムは、行き先や内容など自由に設定することができ、本当にやりたいことができました。また、十分な援助を受けることができたので経済的な負担をあまり感じずに研修に打ち込むことができました。

最後に、短い期間でしたが今回のような新しい試みを近くで研修させていただき、貴重なお話を沢山聞かせていただきました園長先生をはじめ、保育園の先生方、保護者の方々に感謝したいです。

現代福祉学科 R. S (2007年度入学)

A. Y (2007年度入学)